



# つくも ばし 九十九橋をたんけん!



つくも ばし  
九十九橋という橋を知っているかな? 名前もおもしろいけれど、ほかにもいろいろかわったところがあったみたいだよ。

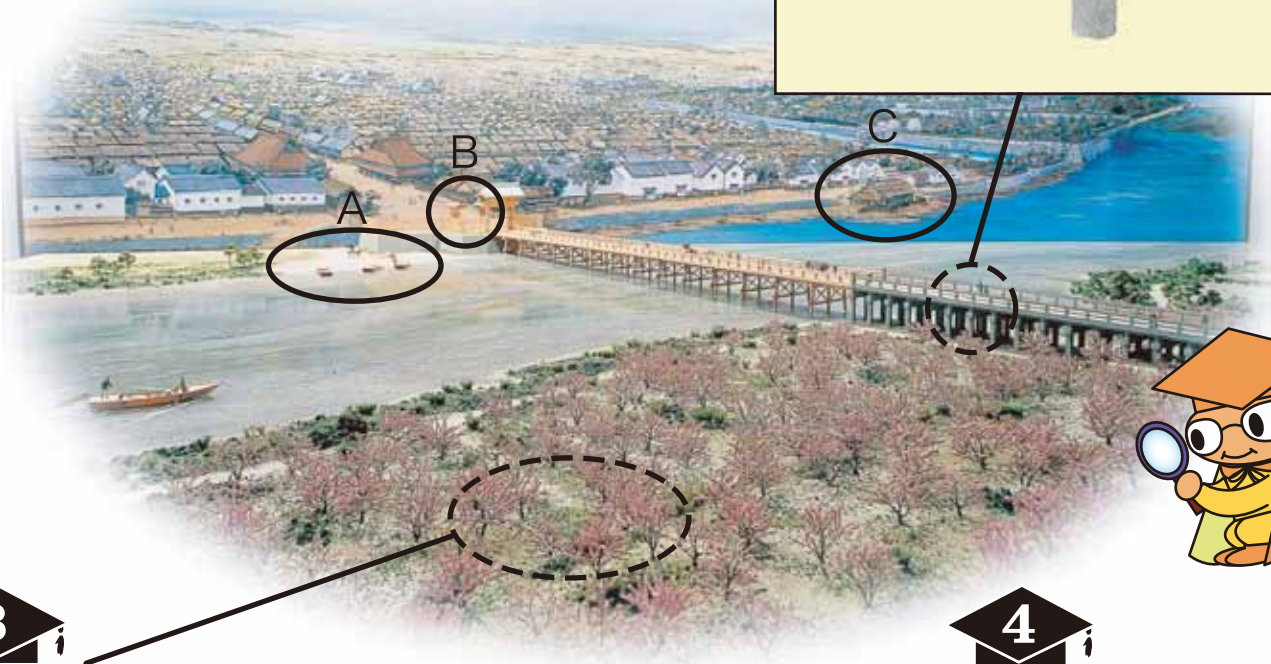
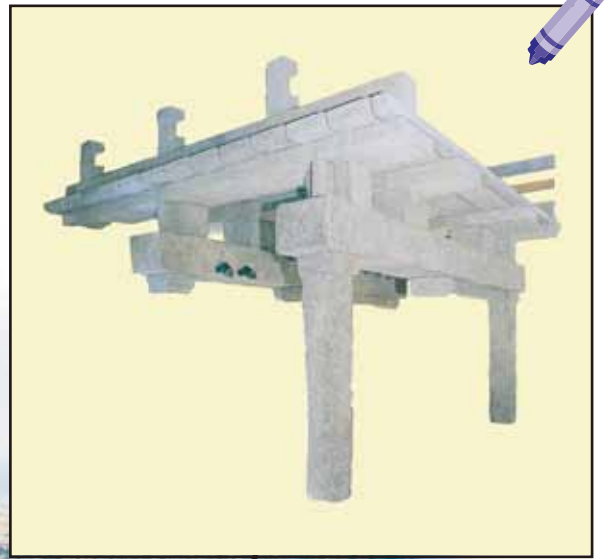
## 1

写真の中のA~Cはどういうところだったのかな?  
下の文章がどこのことを説明しているか、  
しらべて線でむすんでみてね。

- A・ 舟つき場。いろんなモノを運んできて、ここでおりました。
- B・ 芝居小屋。見物の人でにぎわっていました。
- C・ 高札場。いろんな決まり事がここに掲げられました。

## 2

大きな橋の模型があるね。でも抜けている部分があるんだ。  
ジオラマなどを見ながら、石の九十九橋を完成させよう。



## 3

ピンク色のきれいな花がたくさん咲いているね。  
これは何の花?

1. さくら
2. もも
3. うめ
4. つつじ

こたえ

## 4

石と木、半分ずつでできた九十九橋。どうしてそうなったのか、ここでは3つの説を紹介しています。  
□の中にはいることばをさがそう。

- ①  のとき、木の部分を壊して  するため。
- ②  とき、橋脚の間を  するため。
- ③  のとき、木の部分が流れて  するため。

ヒント: この中からことばをえらんでね

- ア. 洪水 イ. 戦争 ウ. 川を舟が行き来する エ. 舟がとおれるように
- オ. 被害を少なく カ. 敵がとおれないように

# ひとや馬、舟があつまる

## ～城下町のにぎわい～



つくも 九十九橋のまわりには、たくさんの人や馬、舟が行き来して、にぎやかそうだね。この人たちはどこから来たんだろう？どこへ行こうとしているんだろう？

### 1 北へ、南へ… ～北陸道～

江戸時代は、自動車も鉄道もない時代。遠くに旅や商売をしに行くにも、普通の人は歩くしかない。その人々が行き来したのが「街道」とよばれる道だ。福井のまちには、「北陸道」という街道が通っていた。それがちょうどこの九十九橋を通る道なんだ。この道を通って北へ行けば百万石の城下町金沢、南へ行けば大都會の京・大阪、さらには江戸までいくことができたんだ。

--- 航路(船の道)  
— 街道

西回り航路



### 2 水上の道

#### ～足羽川から九頭竜川、日本海へ～

トラックや鉄道がない時代に、大きな荷物を運ぼうと思ったら、どうしたらいいだろう？馬や牛に車を引かせて運ぶのも1つの方法だけど、もっとたくさんの荷物を一度に運ぼうと思ったら、舟にのせて運ぶのが一番だ。足羽川にも、たくさんの舟が行き来していた。そしてその「水上の道」は、九頭竜川をつうじて三国まで、またそこから海をへて全国の港町へとつながっていたんだ。

福井の城下町は、このように、陸上の道「街道」と水上の道「川」が交わって、たくさんの人やモノが行き来するまちだったんだね。

### しらべてみよう！

『調べ学習に役立つ図解日本の歴史⑤ 絵や資料で調べる江戸時代前期』

『見る・読む・わかる 日本の歴史3 近世』

『小学館版少年少女学習まんが 日本の歴史⑬ 士農工商』

江戸時代の「街道」や船についてしらべてみよう！

